山口県環境保健センター挨拶（ホスト機関）

自然系調査研究機関連絡会議（NORNAC）への期待

山口県環境保健センター所長　調　恒明

NORNAC では、1998 年の発足以降、毎年活動事例発表会、開催地でのフィールドの見学等が実施されてきました。今年は、山口県がホストとなり山口市で開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の発生により、全国から参集していただくことは難しく、web 形式での開催となり、直接お目にかかっての情報交換がかなわなかったことは大変残念に思っております。

さて近年、動物の病原体が人に感染する新興感染症が多発し、人類にとって大きな脅威となっています。現在、世界中を混乱に陥れている COVID-19 のウイルスも、コウモリから分離されたコロナウイルスと最も類似性が高いことが報告されました。西日本を中心に増加している重症熱性血小板減少症候群（SFTS）は、マダニが媒介する致死性の高いウイルス感染症ですが、マダニは鹿、イノシシなどの野生動物の血液を吸血する事によって生活環が成立します。環境の変化により野生動物が増加し、ヒトの生活圏に接近することがマダニと、結果としてヒト SFTS の増加につながると考えられています。新興感染症の増加は動物の生存環境が脅かされていることが一因であり、環境、動物、ヒトの健康を同時に改善する One Health の取り組みが重要であることを示しています。

環境の改善には、フィールドで生息する生物と環境を把握し、科学的データに基づいて生物と環境の保護に取り組むことが基本であり、そのためには環境省自然環境局生物多様性センターが主催し、自治体の環境系研究機関等が参加し開催される NORNAC の研究発表会は貴重な情報交換の機会となっています。

山口市の中心を流れる椹野（ふしの）川の河口干潟にはカブトガニが生息しており、環境保健センターも専門的立場から参加する椹野川河口域・干潟自然再生協議会では、山口湾の干潟でカブトガニ幼生の生息調査と小学生等を対象の観察会を毎年開催しています。また、平成 15 年に県が策定した「やまぐちの豊かな流域づくり構想（椹野川モデル）」に基づき、椹野川河口干潟・山口湾の『里海』の再生の一環である、あさりの生育回復を目的とした「あさり姫プロジェクト」や干潟の生物調査を県民の方々も交えて行っています。

最後に、大きな課題となっている気候変動の影響を把握するためにも、地球規模のビッグデータの解析とともに、各地のフィールドにおける調査が不可欠であり、地方環境研究所や博物館などが参加する NORNAC の活動が今後もますます発展し、来年度からは現地で開催されることを願っています。